

## 85 召命時のマタイは、若者か老人か

### 《聖マタイの召命》

2024

真鍋友範

#### 1 召命時のマタイの予測年齢

単純に考えて、マタイ伝の内容は、果たして約30年間分のイエスの言行録なのだろうか。

約30年分の分量のイエスの言行と考えるなら、召命時にマタイは若者であった、と考えられるし、10年未満であると考えれば、召命時のマタイは老人であって不思議ではない。

この点について、ローマ・カトリック教会に質問したことは無いが、ローマ・カトリック教会派の美術史家は《聖マタイの召命》のマタイは、中央のヒゲの老人と考えていることから、ローマ・カトリック教会は、召命時のマタイは、やはり老人と考えているのだろう。

根拠として考えられる理由の一つは、現地の3部作品に於いて、全てのマタイが老人であれば、3連作としての違和感がないからだろう。



《聖マタイの召命》



《聖マタイと天使》



《聖マタイの殉教》

\*ただし、ローマ・カトリック教会は、《聖マタイの召命》では、髭の男がマタイだと誤判断している。

結論として、ドイツ学派美術史家の考える、《聖マタイの召命》に於ける、【呼び出されたマタイは、若い俯いた収税人】という指摘は、3作品の連作性を損なうという理由において、誤りなのだ。

この視点に於いては、ローマ・カトリック教会関連美術史家の指摘は正しいのだろう。ただし、ローマ・カトリック関連美術史家は、もう一人いる老人に気付いていない。

その老人とは、眼鏡を持つ、上司たる年配の収税人なのだ。